

平成 26 年度 【 学園研究費助成金 < A > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ワキタ ヤス
氏 名 脇田 泰子

研究期間 平成 26 年度

研究課題名 故・ジュグラリス夫妻に見る戦中から戦後にかけての日仏文化交流

研究組織

| | 氏 名 | 学 部 | 職 位 |
|-------|--------|--------|-----|
| 研究代表者 | 脇田 泰子 | 文化情報学部 | 准教授 |
| 研究分担者 | 飯塚 恵理人 | 文化情報学部 | 教授 |
| 研究分担者 | | | |

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

能楽・観世流の名家、梅若万三郎家で 2011 年、戦前からの能に関する資料が多々見つかり、白人男性が映るフランス語字幕入りモノクロ 16 ミリフィルムも発見された。彼は仏人ジャーナリストのマルセル・ジュグラリス(1922-2010)で、能に着想した創作舞踊ハゴロモで第二次世界大戦後、成功を収めた直後に夭折した妻エレヌの遺言により、遺髪をゆかりの地に埋めるべく来日し、映像は 1952 (昭和 27) 年、彼女の功績を称え三保の松原に建立された「羽衣の碑」除幕式の記録と判明した。戦争を越えハゴロモを世に送り出した妻、初来日後も日本に長く留まり仏紙極東特派員となった夫、それぞれに日本とその文化の在り様を祖国に伝えた足跡から、夫妻が日仏交流に果たした役割と戦後フランスが見た日本らしさについて考察する。

2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

- 1) マルセルの死後、彼の綿密な取材資料群は、遺族の手により仏国内主要 2 か所に寄贈されたと関係者より伝え聞いているため、事実確認も含め、日本の学界では未紹介の資料の存在を明らかにするとともに、その価値に関する調査と記録と検証とを、現地に赴くことを通じて可能な限り行う。
- 2) 妻エレヌの有した能とハゴロモ創作にまつわる羽衣関連の各種資料も、上記 2 ヶ所の中にあることが予想され、その存在の確認と保管状況等についての調査を行う。
- 3) マルセルの死を看取った三番目の妻ソニアさんをはじめ、生存する関係者は概ね 80 歳を超す高齢であるため、なるべく早い段階で資料補足のためのインタビューや対面聞き取り調査を実施することを目指す。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

日本関連資料の寄贈先とされるアルザス地方圏南部、オー・ラン(=ライン川上流)県コルマル/キエンツハイムにある「アルザス欧州日本学研究所」(以下 CEEJA=Centre Européen d'Études Japonaises d'Alsace)を訪ね、昭和20～50年代にかけてマルセルが日本で行った日本とその文化に関する記述をとどめる手書きの取材ノート40冊以上、インタビューの録音カセットテープ30本以上、パンフレット、絵葉書、撮影ネガフィルム、写真のアルバム、戦前から戦後にかけてのSPレコード類、手紙、メモなど、様々な資料の存在を現認することができた。ただし2014年秋現在、ごく一部の例外を除くと、これらは段ボール箱32個に殆ど未整理のまま残されていることも判明した。例外はCEEJA図書館の書架に分類・収蔵された日仏どちらかの言語による書籍類と、妻エレヌの能と羽衣関連の資料である。特に後者については、能楽研究に携わる地元の大学院生が自身の研究も兼ね、アルバイトとして分類を担当していたこともあり、整理作業がほぼ完了していることを今回の訪問調査で確認できた。

中国関連資料の寄贈先はパリ第一大学パンテオン・ソルボンヌ付属「現代アジア史センター」(以下 CHAC=Centre d'Histoire de l'Asie Contemporaine)で、「マルセル・ジュグラリス史料コレクション」として段ボール15箱分が既に資料分類を経た形で保管されていた。資料整理専門の図書館司書が2か月間を費やして作業を行ったという。中国に関する新聞記事、原稿、写真、ネガ、レコード、フィルム、メモ類などの閲覧が可能である。今回の調査により、本来はCEEJAにあるべき、日本に関するマルセル執筆による新聞記事のスクラップブックがCHACに保存されていることが判明した。いずれにせよ、これらの史料群については、日本人による調査が未だ成されていないため、日本ではその存在さえも知られていないのが研究の現状である。ソニア未亡人は、転倒により足を負傷し、パリ市内の病院に入院したため、面会できなかった。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

| | | | |
|----------|-----|-------|----------|
| ①ジュグラリス | ②日仏 | ③文化交流 | ④羽衣・ハゴロモ |
| ⑤第二次世界大戦 | ⑥能楽 | ⑦フランス | ⑧特派員 |

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果の一部の報告は次の通り。脇田泰子、日仏メディア交流協会主催シンポジウム「能・羽衣を前大戦直後のパリで紹介したフランス人夫妻と日仏交流一元東京特派員マルセル・ジュグラリスと妻エレヌを語る」(パネリストとして発表)、2013年9月30日、東京・日仏会館、今年度は関連文献の収集とその読解に充てた。来年度は、アルザスとパリで得られた資料の目録と内容報告を作成し、マルセルが日本文化の何を、いつ、どのように、どの媒体で取り上げたのか、資料から判明する概要について、紀要等で発表する。今後の展望としては、CEEJAにある段ボール30箱以上の未整理資料について、資料名と番号を付して分類を行い、資料目録を作成することを最優先とし、マルセルが日本とその文化のどのような点に着目し、どのように報じていたのかを明らかにすることが重要である。これらの作業により、仏メディアによる日本文化観の形成過程を明らかにすることが可能となる。